



2023年12月8日

各位

会社名 株式会社 ケア 2 1
代表者名 代表取締役社長 依田 雅
(コード:2373 東証スタンダード)
問合せ先 常務取締役 和久定信
業務統括本部長
(TEL.06-6456-5697)

業績予想数値と実績との差異および特別利益、特別損失の計上
並びにリース資産、リース債務のオフバランスに関するお知らせ

当社は、2023年5月22日に公表いたしました2023年10月期(2022年11月1日~2023年10月31日)の業績予想数値と、本日公表の実績に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。また、特別利益、特別損失の計上と、リース資産、リース債務のオフバランスが生じたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 2023年10月期連結業績予想数値と実績との差異
(2022年11月1日~2023年10月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 41,000	百万円 △250	百万円 180	百万円 90	円 銭 6.68
実績 (B)	41,098	△401	197	6	0.46
増減額 (B-A)	98	△151	17	△84	
増減率 (%)	0.2	—	9.4	△93.3	
(ご参考)前期実績 (2022年10月期)	38,398	1,107	1,157	630	46.83

2. 2023年10月期個別業績予想数値と実績との差異
(2022年11月1日~2023年10月31日)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 37,500	百万円 315	百万円 150	円 銭 11.13
実績 (B)	38,495	157	△18	△1.38
増減額 (B-A)	995	△158	△168	
増減率 (%)	2.7	△50.2	—	
(ご参考)前期実績 (2022年10月期)	35,754	720	307	22.86

3. 業績予想数値と実績との差異および特別利益、特別損失計上並びにリース資産、リース債務オフバランスの経緯及び理由

売上高に関しては、連結・個別ともに概ね前回公表した予想通りの結果となりましたが、サービス提供体制の維持に要する費用や人員確保にかかる費用の増加に関しては、第3四半期会計期間以降、ピークアウトする想定で業績予想数値を算定しておりました。

しかし、実際にはピークアウトせず、むしろ増加し続けたため、収益性の回復が予想通り進みませんでした。一定の費用に対して自治体より想定以上の補助金が得られたこと、為替相場が円安基調で推移し、ベトナム社会主義共和国への投資に関しては為替差益が発生ことにより、連結経常利益に関しては前回公表値に近い実績値となりましたが、連結・個別業績ともに、前回公表値より150百万円程度予想を上回る費用が発生しました。

また、土地建物賃貸借契約の一部について、将来の介護需要の予想に基づいて契約内容の延長等を推進した結果、ファイナンス・リース取引に該当しないこととなったため、連結・個別ともにリース解約益を443百万円特別利益として計上しております。

一方、事業所単位の収益性の回復が遅れたことにより、減損損失を連結で538百万円（個別535百万円、子会社3百万円）、2023年2月20日に公表しました中華人民共和国の子会社2社について、解散手続きが完了したため、個別で子会社清算損を55百万円特別損失として計上しております。

上記の土地建物賃貸借契約の一部の変更に伴い、連結貸借対照表に計上しておりましたリース資産（純額）5,375百万円、流動負債に計上しておりましたリース債務260百万円、固定負債に計上しておりましたリース債務5,536百万円をオフバランスしております。

以 上